

第2回 向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会 会議録

開催日時	平成28年7月27日（水）午前10時～12時	
開催場所	向島学生センターセミナーハウス2階会議室	
出席者	乾委員，加藤委員，杉本委員，高田委員，小林(勝)委員，福井委員，上代委員，鈴木委員，高木委員，日高委員，宇野委員，山崎委員，小林(大)委員，大濱委員(代理/岩城氏)，西川委員，平田委員，西澤(弘)委員，宮島委員，伊藤委員，押領司委員，西澤(亨)委員，菊池委員(代理/関氏)，善積委員，篠委員，山本委員，北田委員，中村委員，澤田委員	
	WG関係者：吉村，高橋，竹口(以上，京都文教大学)	
欠席者	丸木委員，浜中委員	
事務局職員	京都市 都市計画局都市企画部長 同部都市総務課ニュータウン企画調整担当課長 同課企画調整係長 伏見区地域力推進室まちづくり推進課長 株式会社地域計画建築研究所	鈴木 知史 菱田 栄造 平岡 雅基 東山 和之 中塚 一 嶋崎 雅嘉 大河内 雅司 戸田 幸典
公開・非公開	公開	
傍聴者	2名	
報道関係	3名	
議題(案件)	<input type="radio"/> 開会 <input type="radio"/> 新委員紹介 <input type="radio"/> 議題 <ol style="list-style-type: none"> 1 第1回検討会の内容確認 2 「向島ニュータウンのこれからの話し合う集い」開催の報告 3 ワーキンググループ（WG）の開催・検討の状況報告 4 向島ニュータウンまちづくりビジョン（骨子イメージ）について 5 今後のスケジュール <input type="radio"/> 閉会	

資	資料	資料1-1	第1回向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会 会議録
		資料1-2	第1回検討会要求資料（質問に対する回答）
		資料2	「向島ニュータウンのこれからを話し合う集い」開催報告資料
		資料3	各ワーキンググループ（WG）の開催・検討状況報告資料
		資料4	向島ニュータウンまちづくりビジョン（骨子イメージ）について
		資料5	今後のスケジュール（予定）
		参考資料1	向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会 委員名簿
		参考資料2	向島ニュータウンまちづくり通信第1号
		参考資料3	向島ニュータウンまちづくり通信第2号

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
高田会長	<p>■ 開会</p> <p>○ただ今から第2回向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会を開催する。</p>
高田会長	<p>◆ 新委員紹介</p> <p>○検討会委員に変更があったので、報告させていただく。二の丸学区市政協力委員連絡協議会会長が増田会長から小林勝会長に交代された。</p>
小林(勝)委員	<p>○この度、二の丸学区市政協力委員連絡会会長に指名されたので、よろしくお願いしたい。</p>
高田会長	<p>○本日は向島藤ノ木学区連合自治会会長の丸木委員と、向島藤ノ木学区民生・児童委員協議会会長の浜中委員のお二人が欠席となっている。</p> <p>○医療法人健幸会むかいじま病院院長の大濱委員の代理として岩城氏、(独)都市再生機構西日本支社京奈エリア経営部部長の菊地委員の代理として関氏が出席されている。</p>
高田会長	<p>■ 議事</p> <p>○議事に入る前に、本日の資料と議題の確認をしていただく。</p>
事務局	<p>(資料の確認)</p> <p>(議題1～5の確認)</p>
高田会長	<p>○本日の議事の内容を説明していただいたが、3番目のワーキンググループの検討の状況報告が中心になる。幅広い御意見をいただきたい。</p>

高田会長	<p>1 第1回検討会の内容確認</p> <p>2 「向島ニュータウンのこれからを話し合う集い」開催の報告</p> <p>○議題1と議題2は振り返りなので、続けて事務局より説明していただく。</p>
事務局	<p>(資料1-1について説明)</p> <p>(資料1-2について説明)</p> <p>(資料2について説明, 参考資料3を参照)</p>
高田会長	<p>○御質問, 御意見はないか。(質問, 意見等, なし)</p> <p>○改めてお気づきの点は後ほど御発言いただくこととして, 本題に移りたい。</p>
高田会長	<p>3 ワーキンググループ(WG)の開催・検討の状況報告</p> <p>○議題3「ワーキンググループ(WG)の開催・検討の状況報告」について, まず資料説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(資料3について説明)</p> <p>○これまで7つのWGを開催しているので, それぞれのWGの開催状況について報告していただく。</p>
小林(大)委員	<p>(「①すまいと共用部改善WG」について報告)</p>
吉村(京都文教大)	<p>(「②高齢者・障がい者暮らし安心WG」について報告)</p>
高橋(京都文教大)	<p>(「③子育て充実WG」について報告)</p>
竹口(京都文教大)	<p>(「④地域防災・防犯WG」について報告)</p>
杉本委員	<p>(「⑤中国帰国者・多文化共生WG」について報告)</p>
伊藤委員	<p>(「⑥商店街等活性化・交通問題WG」について報告)</p>
杉本委員	<p>○「⑦地域コミュニティ活性化・地域情報化・エリアマネジメントWG」はまだ始まっていない。</p> <p>○母体となる住民組織の脆弱さがテーマとなるが, 自治会がないところは管理組合しかなく, 自治組織としての役割が担いきれてはおらず, また, 自治会があるところも, 加入率の減少が見られる, という中で, 市営住宅と分譲, 高層と低層とで住民の雰囲気も組織も違い, すぐには取り組めない。そのため, 8月~10月に各街区, 各棟のコミュニティの現状, 既存の組織の活動実態を調査する。1街区では集会所の改修に際して管理組織の設立の話も出ているので, MJも含めて現状を把握した後, ⑦のWGを開催したい。</p>

高田会長	<p>○WGは相互に関係があり、それぞれに重要な課題があるので、それらを結び付けて今後の方向を考えなければならない。</p> <p>○どのWGについてでも良いので、自由に御発言いただきたい。</p>
岩城(代理)	<p>◆ 医療機関からWGに期待すること</p> <p>○医療機関としては、医療福祉の面に関する高齢者問題を把握しなければならない。</p> <p>○むかいじま病院は耐震性の問題で建て直しを検討しているが、防災面との関連を考えて、WGの意見を参考にしながら、どの場所に建て替えるべきかについて、住民の要望を吸い上げたい。それができれば、この地域における当法人の役割が明確になると思う。</p> <p>○そう考えると、この地域における高齢者や福祉の問題をもっとクローズアップするようなWGの方向性が示されると、地域に還元できる形で様々な取組ができると思う。</p>
山崎委員	<p>◆ 関連するWGの共同開催</p> <p>○6月11日のような集まりをあと2～3回開催してほしい。例えば、住まいと商店街等、課題が重なる部分のあるWGと一緒に開催すると、課題も整理されるし、住民も何度も話を聞くことで次のアクションプログラムやビジョンの実施体制の準備に役立つ。</p> <p>◆ コミュニティに関するWGの必要性について</p> <p>○コミュニティのあり方や再生に関するWGはこれまでなかったので、是非進めてほしい。防災や介護サービス等、課題はかなり多い。</p> <p>○特に介護サービスについては、地域包括支援センターの担当範囲は通常、中学校区を生活圏域として担当するところが多いが、向島地域は中学校区が2つで、担当部分は大きいだけでなく、質の違った生活圏域になるので、現在のままではこれからの包括ケアシステムの構築にも支障が出ると思う。支援センターは地方自治体が委託した業者がやっているの、コミュニティから声を上げることが大切である。</p> <p>○また、来年4月から国の介護保険の支援1、2のホームヘルプサービスやデイサービス部分が地方自治体の事業に移る。今、地方自治体は総合事業として検討中、それについてもコミュニティとして意見を出すことが必要だと思う。そのためにも、コミュニティに関するWGを進めてほしい。</p> <p>◆ 図書館の活用について</p> <p>○跡地利用でコミュニティセンターが挙げられているが、図書館の2階は従</p>

	<p>前、生涯学習の施設として使用されていたものの、現在では、教育委員会の管理下で、京都市全域の図書館の倉庫になっていると聞いている。京都市内には他にも跡地があるので、住宅地の中に倉庫をつくるのは理解し難い。コミュニティセンターは是非必要なので、向島図書館の2階をコミュニティセンターとして利用することも検討課題として挙げていただきたい。また、これを検討するためにも、2階内部の見学を希望する。</p>
<p>乾委員</p>	<p>○ワークショップを何度か開催するという案には賛成である。</p> <p>◆ いろいろな人が参加しやすいWGづくりの提案</p> <p>○それに関連して、2つ提案がある。WGは質が高いので、これを並行して走らせるのは効果が大きい。その中で、もっといろいろな人から話を聞きたいという意見が出ているので、集中した議論のために次々に人が来ると困るWG以外で、広げて良いところは積極的に広げた方が良くと思う。全体ワークショップをすると同時に、WGのネーミングも「向島のことを考えるテーマ別会議」とか「テーマ別話し合い」等にして、いろいろな人が参加しやすくすると良いのではないか。</p> <p>◆ 「まちづくり通信」の充実と活用の提案</p> <p>○広報については「まちづくり通信」をもっと活用できるのではないか。WGの話も「まちづくり通信」の中で紹介すると同時に、検討会のみ報告をする通信ではなく、向島のイベント情報やWGの案内、歴史よもやま話や福祉のコラム等も入れて、読んで面白いものに充実することを提案したい。</p>
<p>小林（勝）委員</p>	<p>◆ 区役所の支所の誘致の提案</p> <p>○学校跡地に区役所の支所ができると、便利になり、行き来も盛んになると思う。</p>
<p>上代委員</p>	<p>◆ 歴史文化面からの活性化の提案</p> <p>○歴史文化部会だが、石碑や表示があれば歴史散策ができるし、人が集まるイベントをすれば地域の活性化になると思う。そのためにも是非、向島城の石碑がほしい。これは向島のイメージアップや活性化に役立つので、ここでも押し進めてほしい。</p> <p>○夏場に「う」のつく食べ物を食べると病気にならないという言い伝えがあり、鰻、瓜などが挙げられるが、歴史的には太閤秀吉が向島で「瓜見の宴」を催したという故事がある。当然、暑気払いに瓜も食べた風習があったはずで、昔は西瓜と瓜を井戸で冷やしていたが、最近では瓜を見ないので、歴史散策と</p>

日高委員	<p>併せて瓜を向島の名産にして、観光に来た人に食べてもらってはどうか。これもニュータウンの活性化につながると思う。</p> <p>○向島の景観を良くすれば、必ずまちのイメージアップや活性化に寄与する。</p> <p>◆ 相互に参加できるWGの仕組みの必要性について</p> <p>○高齢者・障がい者のWGに参加しているが、社協も高齢者だけでなく、子育てにも対応しており、買い物難民の問題等、課題には横のつながりがある。したがって、WG自体を参加しやすくして、全体を取りまとめて呼応する形で、関連する複数のWGに参加できる形を考えてほしい。</p>
福井委員	<p>◆ 向島の農業について</p> <p>○巨椋池の干拓地の農業は目玉だと思うが、直接関わるWGがないので、大きな枠の中で向島の農業をまちづくりビジョンの中に入れていただきたい。</p>
杉本委員	<p>○向島の農地は近郊で、面積も広く、若い後継者が育ちつつある。今は20～40代の若手が個々に取り組んでいるので、宇治川の方も合せてネットワークを作ろうという話が出ている。宇治川の農家からは「ファーマーズマーケットや道の駅を向島で一緒にやりたい」という話も出ている。</p>
高田会長	<p>◆ WGに関するまとめ</p> <p>○WGの持ち方、全体のミーティングに関する要望もあったので、クローズドで専門分化したWGではなく、テーマ別の話し合いが時間差で行われるようなイメージで、緩やかな連携を持ちながら進められないか。また、特定のテーマではなく、いろいろなことを一緒に議論できるような全体の協議の機会を持ってはどうかという良い意見を頂いた。スケジュールとの関係で開催できる回数は分からないが、WGを全体の会議に重ねる部分があっても良いと思うので、今後の日程を工夫する等、事務局で検討していただきたい。</p> <p>○WGの中では関連する議論があったと思うが、特にコミュニケーションのための空間のニーズが強い。一方で、空いている空間もあるので、それを上手くマッチングさせて、既存の建物を活用し、ニュータウンの中で社会的空間を整備する。しかも、行政主導で協働の空間をつくと運営との関係で箱だけできて中身が動かないことがあるが、住民から提案のあったところは運営の目途が立ちやすいと思うので、そういうところを吸い上げてほしい。既存のものを活用すると早く着地できると思うし、取り組んでダメならまた考えれば良いので、順次取り組むことを考えていただきたい。</p>

	<p>○情報の問題も大きい。情報が必要な人に上手く届かないところがあるし、日常の情報の話も、災害時の問題等、マップ化して情報を伝えるアイデアや多言語の表示等、様々な提案を頂いた。「まちづくり通信」の情報量を増やすという提案もあったが、増やす、見やすくする、楽しくすることも含めて、いろいろな媒体で情報を上手く伝えることをもう一度見直してはどうか。</p> <p>○問題山積の一方で、向島の良いところを発見し、発信していくことも重要。歴史・文化の問題や、農業の話も食育との関連、故事に由来する瓜の話等も含めて、総合的に関わるとポジティブに展開できると思うので、良いところを見つけて伸ばしていくことが必要である。</p> <p>○京都の中では、本来、ニュータウンはインフラの整備レベルが高いのが特徴だが、それが十分に活かされていない。防犯防災、景観、バリアフリー、アクセスの問題も含めて、インフラが活かされていない点を公共の役割として見直す必要があり、それだけで交流が促進されるのではないか。一方で、商店街や交通の問題は市場の問題と関係するが、市場の環境整備は少し取り組んでも効果が出ない一番難しい問題なので、何らかの戦略を持って取り組んでいただきたい。いずれにしても、議論を継続して展開していただきたい。</p>
高田会長	<p>4 向島ニュータウンまちづくりビジョン（骨子イメージ）について</p> <p>○続いて、議題4「向島ニュータウンまちづくりビジョン(骨子イメージ)について」の議論を行う。まず、事務局から資料の説明をしていただく。</p>
事務局	<p>(資料4について説明)</p>
吉村(京都文教大)	<p>◆ 障がい者殺傷事件について</p> <p>○障がい・高齢者WGだが、昨日(26日)、障がい関係で戦後稀に見る悲惨な事件が起きた。我々のWGに関わる問題であり、こういう問題を共有する機会なので、WGにも参画されている矢吹氏に発言の許可を頂きたい。</p>
高田会長	<p>○(皆より承認を得る)それでは、発言していただきたい。</p>
矢吹氏	<p>○昨日、障がい者が施設で19人殺傷される事件が起こり、私は昨日の朝から落ち込んでいる。これに関して1つお願いがある。これからのまちづくりについては、「障がい者は可哀想で、何もできないので世話をしなければならぬ」「助けてあげなければならない人たちだから、生きていても意味がない」という思いが万が一にも醸成されるようなまちづくりであってはならぬ</p>

	<p>いし、ここに住む障がい者自身もまちづくりにおいて役割をもつ存在なので、関わりを深めていただきたい。</p> <p>◆ 文言の修正と、4つの提案</p> <p>○WGで「買い物難民」という言葉が出ているが、難民ではなく支援が必要な人であり、「災害弱者」も弱者ではないので、言葉を見直してほしい。</p> <p>○26日の障がい者殺傷事件は深く向き合う必要がある。まちづくりのビジョンに関しても根底に必要なのは命の尊厳であり、悲しみ、苦しみを分かち合う文化を向島から発信してほしい。表面だけ整ったまちにするのではなく、重い障がいを抱えた人も非常に大切な人、人が人であるために必要な人であることを発信できるよう、それをまちづくりビジョンの中央に置いてほしい。</p> <p>○親のエンパワーメントも重要で、文化資本として暮らしの中で知恵を深め、広め、芸術文化を楽しむことに関して、意識的にエンパワーメントプログラムを進めていく。</p> <p>○3点目はアウトリーチで、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)と言われるが、向島なりの情報を送り届け、相互吟味するような機能も必要である。</p> <p>○最後に、自治の力や参画する力、その度合い、文化資本度を測定する。例えば、5年前に比べて向島地域は社会に参画する度合いがどの程度高まったか、社会的に谷間にある問題等への情報提供がどのように進んだか、コミュニケーションがどのように進んだかという成果を測ることも考える必要がある。</p> <p>※ アウトリーチ・・・公共機関などが現場に出張してサービスを届ける方法</p>
高田会長	<p>○最初の3点はビジョンづくりに関する話だが、本日はアウトプットイメージを提示されているので、このような進め方で今の4点の提案を盛り込むことは可能と考えて良いか。</p>
加藤委員	<p>○良いと思う。</p>
乾委員	<p>◆ 骨子イメージに加えてほしい内容</p> <p>○骨子イメージを作るのは共有する上で良いと思うが、まちづくりは一人ひとりが機嫌良く暮らすためにあるので、左側に「何を目指すのか」「何のためにするのか」というそもそもビジョンを何のためにするのか、目的が必要</p>

	<p>である。それは「命の尊厳」や「人が人であるために」ということであり、貧困の問題も含まれると思うが、何のためにこの計画が進められるのかを謳い込んでおく必要がある。</p> <p>○整理された文章はつまらないが、アクションプログラムを間に入れる話と、続くという話は大事な部分だと思う。京都市の手を離れても住民が続けていく話であるなら、骨子イメージの左側に目的を入れると同時に、間に、住民を巻き込みながら進めていく話や、住民やサポートグループの出番づくり、コミュニティグループを育てる話等、「こういう状況をつくる」「こういうことをする」「こういう内容をつくる」というように、目指すものとしてアクションプログラムを入れてほしい。</p> <p>○一番右側には「続く」という話と「本年度の成果」の2つを書いてほしい。</p>
小林(大)委員	<p>◆ 住民がスローガンを考えることの必要性について</p> <p>○今はイメージとして出されているが、まちの名称を変えても成り立ちそうなことしか書かれていない。住んでいる人間としては、自分たちの言葉に作り直さなければならない。来年4月に京都市がいなくなると、自分たちで取り組まなければならないが、他から与えられたスローガンでは動けない。これからのWGや集まりの中で、自分たちの言葉による案を持つ作業をする必要があると強く思っている。</p>
高田会長	<p>○それほどきれいに整っていないけれども、議論されたものが全体として入っていれば良いと思うので、そういう形で最終的に着地できれば良いと思う。</p>
杉本委員	<p>◆ 行政の見える形での参画の必要性について</p> <p>○来年になると京都市がいなくなるという話があったが、現実にアクションをする時はいてもらわなければ困る。継続のところには予算措置もあるので、具体的に行政は何をし、住民は何をするのかを明確にしながら一緒に取り組む。長期計画で予算も考えていただく形で、行政の参画が見える形にしたい。</p>
乾委員	<p>○だからこそ、明文化して逃げられないようにしてもらわなければならない。</p> <p>◆ 「まちづくり通信」の重要性と取材者の必要性について</p> <p>○1点お願いしたいのは、「まちづくり通信」は住民にとって非常に大事だと思うので、面白いコラム等も含めながら、向島のことをきちんと知ってもらえる通信に化けさせてもらいたい。そのためには取材者を位置づけてほしい。</p>

高田会長	<p>○加藤委員が指摘された成果指標については、すべてに指標が整備されているわけではないが、それぞれの項目について指標化できる部分があると思うので、事務局で検討して案を出していただきたい。分かるものもあれば、分からないものもあると思うが、検討自体は意味があると思う。</p> <p>○それでは、ビジョンのイメージについては、プロセスも含めて、できるだけ手作りでできるように考えていくことと、全体のフィロソフィー、何をしたのかということがもっと明確に分かるような構造をつくり上げることが大事だという御指摘があったので、その議論は継続して進めていただきたい。</p> <p>※ フィロソフィー・・・ものの見方、考え方</p> <p>5 今後のスケジュール</p>
高田会長	○最後に、議題5「今後のスケジュール」について、説明していただく。
事務局	(資料5について説明)
高田会長	<p>○スケジュールについては関連する意見をいくつか頂いたので、それも含めて見直していただく。名前の付け方も意見があったので、どのような名称であれば人が集まりやすいのかということも含めて検討していただきたい。</p> <p>○それでは、全体を通じて意見はないか。(意見等、なし)</p> <p>○意見がなければ、本日の議論は以上とさせていただき、事務局に進行をお返しする。</p>
事務局	<p>■ 閉会</p> <p>○皆様から頂いた貴重な御意見は、できる限り今後の進め方に反映させていただき、より良いビジョンとして取りまとめていきたい。今後ともよろしくお願ひしたい。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>